



国及び都が定める添付資料②

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	放送映像学科	
科目番号	201	科目名	スタジオ実習 I		科目区分	兼務 実務教員	
科目群	専門	担当講師	榎本 悟・斎藤孝行・菅谷正之		履修区分	必修	
開講学年	1年	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	実習
教科書	なし (都度参考資料配布)			参考書	(同左)		
成績評価	平常点や授業の貢献度 65% 番組制作課題作品の評価 35%						

1. 授業概要

スタジオ番組制作実習を通してテレビの用語やルール、機材の取り扱いを理解し、チームワークの大切さ、仕事の楽しさを学ぶ。そして当校の番組スタジオ実習室を活用し実習授業を積み重ねることで、来るべき未来に即戦力として活躍できるよう学生らの成長を促す。また実務経験教員である斎藤先生はスタジオ業務におけるビデオエンジニアとして30年以上の経験があり、その高い経験値を最大限実習授業に反映させ、より実践的で先端的な授業を展開する。

2. 到達目標

2年次の実習に対応出来るよう基礎技術を習得する。

3. 授業計画

前期	
1	授業説明 安全について スタジオ機材説明 (ペDESTALカメラ・SW・ミキサー・照明卓・CG) 体
2	ペDESTALカメラ練習 (パン・ズーム・フォーカス・ドリ) 名前CGテロップ作成
3	照明概論 照明機器説明 サブ機器説明 (SW ミキサー 照明卓 CG) 8の字巻体験
4	人物サイズ説明 TALL/RET/インカム説明 ハンディーカメラ体験 音声ミキサー卓実習 (マイク
5	CAM SW MIX 実践 (自己紹介を兼ねたインタビュー形式の対談でSW体験)
6	総合照明実習 人物カメラサイズ説明 ペDESTALワーク練習
7	総合音声実習 8の字巻き習得 ハンディーカメラレンズ操作練習 QUEシート説明
8	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (叩いてかぶってジャンケンポン)
9	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (叩いてかぶってジャンケンポン)
10	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (床で神経衰弱)
11	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (床で神経衰弱)
12	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (椅子取りゲーム)
13	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (椅子取りゲーム)
14	番組制作体験実習 (クイズ・トーク・バラエティー番組)
15	前期末実技試験準備 筆記テスト 試験対策補習 8の字巻き復習
16	前期末実技試験
17	前期末実技試験
後期	
1	後期プラン発表 ジブ体験 ハンディーカメラ (ショートズーム) 照明強化実習 バックフォー
2	番組制作体験実習 (クイズ・トーク・バラエティー番組)
3	歌番組で総合制作 カメラ強化 (ドリワーク・ハンディーカメラ) 照明強化 音声卓強化 (N-1)
4	歌番組で総合制作 カメラ強化 (ドリワーク・ハンディーカメラ) 照明強化 音声卓強化 (N-1)
5	歌番組で総合制作 カメラ強化 (ドリワーク・ハンディーカメラ) 照明強化 音声卓強化 (N-1)
6	2元中継 (中継) SW強化 (ワイプ) 照明強化 音声強化 (掛け合い) (N-1)
7	2元中継 (中継) SW強化 (ワイプ) 照明強化 音声強化 (掛け合い) (N-1)
8	2元中継 (別スタジオ) SW強化 (ワイプ) 照明強化 音声強化 (掛け合い) (N-1)
9	2元中継 (別スタジオ) SW強化 (ワイプ) 照明強化 音声強化 (掛け合い) (N-1)
10	スタジオ簡易ドラマ実習

1 1	スタジオ簡易ドラマ実習
1 2	番組制作体験実習 ゲームでSW体験（人間すごろく）
1 3	番組制作体験実習 ゲームでSW体験（人間すごろく）
1 4	前期末実技試験準備 8の字巻き競争をSW実習
1 5	前期末実技試験準備 8の字巻き競争をSW実習
1 6	前期末実技試験
1 7	前期末実技試験

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	放送映像学科	
科目番号	215	科目名	スタジオ実習 II		科目区分	兼任 実務教員	
科目群	専門	担当講師	高梨、鈴木、斎藤(孝)、菅谷		履修区分	選択必修	
開講学年	2年	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	実習
教科書	なし(都度参考資料配布)			参考書	(同左)		
成績評価	平常点や授業の貢献度 65% 番組制作課題作品の評価 35%						

### 1. 授業概要

実習毎に設定されるテーマに応じて番組制作をグループ毎に行い、より実践的なスタジオ番組制作技術を習得する。そして当校の番組スタジオ実習室を活用し実習授業を積み重ねることで、来るべき未来に即戦力として活躍できるよう学生らの成長を促す。また実務経験教員である高梨先生はスタジオ業務におけるテクニカルディレクターとして40年以上の経験があり、その高い経験値を最大限実習授業に反映させ、より実践的で先端的な授業を展開する。

### 2. 到達目標

テレビ番組制作に関わる人材として通用する技能と意識を身に付ける

### 3. 授業計画

前期	
1	自己紹介をして、自己紹介のVTRを収録する。
2	ケーブルの巻き方、カメラのレンズの脱着の仕方を学ぶ。
3	人物を撮るときのサイズを学ぶ。
4	人物への照明の当て方、音の取り方を学ぶ。
5	一人しゃべりの撮影の仕方を学ぶ。
6	二人対談の撮り方や照明のあて方を学ぶ。
7	三人対談の撮り方、照明のあり方
8	四～六人の対談の撮り方、音の取り方、照明のあて方を学ぶ。
9	銅像を使って照明の当て方、カメラワークの仕方。
10	クレーンを作ってクレーンワークの仕方を学ぶ。
11	歌番組を制作して、カメラ、音声、照明のレベルアップを計る。
12	紙芝居を撮影する①
13	紙芝居を撮影する②
14	紙芝居を撮影する③
15	クロマキーの合成技術を学ぶ
16	前期まとめ 総復習①
17	前期まとめ 総復習②
後期	
1	歌番組を撮影する。
2	オリジナル番組を作る ドラマ①
3	オリジナル番組を作る ドラマ②
4	オリジナル番組を作る ドラマ③
5	UNOの取り方を学ぶ①
6	UNOの取り方を学ぶ②
7	料理番組を企画準備する
8	料理番組を撮影する
9	生放送の企画、準備①

1 0	生放送の企画、準備②
1 1	生放送の撮影
1 2	学校CM企画、準備①
1 3	学校CM企画、準備②
1 4	学校CM撮影
1 5	今まで制作した番組のプレビュー
1 6	ペDESTALの動かし方を復習する。
1 7	カメラワーク、サイズの復習をする。

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	TVディレクター学科	
科目番号	0207	科目名	テレビ制作入門		科目区分	専任 実務教員	
科目群	専門	担当講師	矢追孝男		履修区分	選択必修	
開講学年	1年	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	講義
教科書	大学生のための動画制作入門:言いたいことを映像で表現する技術- 2017/4/27 黒岩 亜純 (著), 宮 徹 (著) 慶應義塾大学出版会			参考書	なし		
成績評価	レポート50%、平常点や授業への貢献度50%。						

1. 授業概要

テレビ制作者として何を大切にし、どんなことに気を付けるべきか、「制作現場が欲しがるとともに働きたい仲間」とは何か、視聴率の仕組みやテレビ業界での就活の実際等、基本となる知識やスキルを身に付けていきます。また、放送だけでなく、YouTube等のネット動画環境も見据えた、映像制作の基本を、実践も交えて学んでいきます。講師のバラエティ番組のディレクター・プロデューサーの経験を活かした講義となる。

2. 到達目標

テレビ制作者として、基本となる知識を身に付け、社会人としてのマナーや常識を踏まえた最低限の行動が取れるようになること。

3. 授業計画

前期	
1	テレビ番組の制作工程とその仕組み①
2	テレビ番組の制作工程とその仕組み②
3	テレビ番組の制作工程とその仕組み③
4	就活の基本① 就活スケジュール
5	就活の基本② エントリーシートとは
6	企画の立て方①
7	企画の立て方②
8	事前取材とロケハン①
9	事前取材とロケハン②
10	就活の基本③ 自己分析とは
11	就活の基本④ 自己分析とは
12	粗構成の考え方①
13	粗構成の考え方②
14	就活の基本⑤ 志望理由の書き方
15	就活の基本⑥ 志望理由の書き方
16	撮影—演出面から見た手法①
17	撮影—演出面から見た手法②
後期	
1	就活の基本⑦ 面接の練習
2	就活の基本⑧ 面接の練習
3	本構成を考える①
4	本構成を考える②
5	就活の基本⑨ グループディスカッションの練習

6	就活の基本⑩ グループディスカッションの練習
7	編集の技法①
8	編集の技法②
9	視聴率の基本①
10	視聴率の基本②
11	YouTube 動画制作実習①
12	YouTube 動画制作実習②
13	YouTube 動画制作実習③
14	就活の基本⑪ 就職先の探し方
15	就活の基本⑫ 履歴書の書き方
16	YouTube 動画制作実習④
17	YouTube 動画制作実習⑤

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	TVディレクター学科	
科目番号	0210	科目名	ディレクター実技講座 I		科目区分	専任 実務教員	
科目群	専門	担当講師	岩間 玄		履修区分	選択必修	
開講学年	1年	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	演習
教科書				参考書			
成績評価	レポート50%、平常点や授業への貢献度50%。						

1. 授業概要

ディレクターとは、番組を通して人を笑わせたり、泣かせたり、考えさせたりすることが仕事です。何十万人、何百万人という人々の心をつかみ、揺さぶり、動かすことが仕事です。そのためには熱い情熱と多くの知識や技術が求められます。それに基づいてカメラマンや照明・音声など大勢のスタッフはもちろんのこと、俳優やタレントなどの出演者にも的確な指示を出さなくてはなりません。では具体的にディレクターになるためにはどんなことが必要になるのでしょうか。その基本的な考え方からスタートし、ディレクター必須の様々な知識・技術までを通年で徹底的に学んでいきます。企画の立て方・台本の作り方・カット割り・カメラワーク・演出法・編集法など、これからディレクターとして活躍するために必要な基礎を分かりやすく体得してもらおう講座です。さらに、講師の演出家・統括プロデューサーとして多くの番組や美術展の総合演出や映画の監督を担当した経験を講座に活かす。

2. 到達目標

ディレクター必須の様々な知識・技術（企画・台本・カット割り・カメラワーク・演出法・編集法など）を体得すること。

3. 授業計画

前期	
1	<u>ディレクターはこんなに面白い:でもディレクターって何?入門編</u> ディレクターとは何をする仕事か、様々な映像を見て基礎を知ろう①
2	ディレクターとは何をする仕事か、様々な映像を見て基礎を知ろう②
3	ディレクターとは何をする仕事か、様々な映像を見て基礎を知ろう③
4	ディレクターとは何をする仕事か、様々な映像を見て基礎を知ろう④
5	<u>狙いを知れ:テレビの様々なジャンル・構造を知り、実際の番組の各演出を見つけてみよう</u> 演出とは何か?実際の番組映像を見て、その狙いや技術を感じ、知り、理解しよう①
6	演出とは何か?実際の番組映像を見て、その狙いや技術を感じ、知り、理解しよう②
7	演出とは何か?実際の番組映像を見て、その狙いや技術を感じ、知り、理解しよう③
8	演出とは何か?実際の番組映像を見て、その狙いや技術を感じ、知り、理解しよう④
9	<u>ディレクターとして最低限知っておかなければならないこと:基礎実技を身に付けよう</u> 企画発想、企画書作成、画コンテ、カット割り、撮影、編集、音付け等の基礎実技を学ぼう①
10	企画発想、企画書作成、画コンテ、カット割り、撮影、編集、音付け等の基礎実技を学ぼう②
11	企画発想、企画書作成、画コンテ、カット割り、撮影、編集、音付け等の基礎実技を学ぼう③
12	企画発想、企画書作成、画コンテ、カット割り、撮影、編集、音付け等の基礎実技を学ぼう④
13	<u>では自分で具体的に演出をしてみよう:ディレクター演出実践編→自分に何が足りないかを知ろう</u> ディレクター演出実践入門:ショート動画を撮って実際に基礎的な構成・演出してみよう①
14	ディレクター演出実践入門:ショート動画を撮って実際に基礎的な構成・演出してみよう②
15	ディレクター演出実践入門:ショート動画を撮って実際に基礎的な構成・演出してみよう③
16	ディレクター演出実践入門:ショート動画を撮って実際に基礎的な構成・演出してみよう④
17	前期総復習(ディレクター入門編がきちんと身についたか総点検しましょう)

後期	
1	<u>基礎実践編:実際の番組から具体的な演出技法を学び、身に付けよう(情報バラエティ・ロケ番組編)</u> 実際の情報バラエティ・ロケ番組から演出技法の基礎を学び、身に付けよう①
2	実際の情報バラエティ・ロケ番組から演出技法の基礎を学び、身に付けよう②
3	実際の情報バラエティ・ロケ番組から演出技法の基礎を学び、身に付けよう③
4	実際の情報バラエティ・ロケ番組から演出技法の基礎を学び、身に付けよう④
5	<u>基礎実践編:実際の番組から具体的な演出技法を学び、身に付けよう(映画・ドラマ・CM編)</u> 実際の映画・ドラマ・CMから演出技法の基礎を学び、身に付けよう①
6	実際の映画・ドラマ・CMから演出技法の基礎を学び、身に付けよう②
7	実際の映画・ドラマ・CMから演出技法の基礎を学び、身に付けよう③
8	実際の映画・ドラマ・CMから演出技法の基礎を学び、身に付けよう④
9	<u>基礎実践編:実際の番組から具体的な演出技法を学ぼう(ドキュメンタリー編)</u> 実際のドキュメンタリーから演出技法の基礎を学び、身に付けよう①
10	実際のドキュメンタリーから演出技法の基礎を学び、身に付けよう②
11	実際のドキュメンタリーから演出技法の基礎を学び、身に付けよう③
12	実際のドキュメンタリーから演出技法の基礎を学び、身に付けよう④
13	<u>己を知る:どんなディレクターになりたいか?自分に向いている演出の方向性を探ろう</u> 何を目指すか:ディレクターとしての自分の適性・方向性・やりたいことを探す具体的な実技作業①
14	何を目指すか:ディレクターとしての自分の適性・方向性・やりたいことを探す具体的な実技作業②
15	何を目指すか:ディレクターとしての自分の適性・方向性・やりたいことを探す具体的な実技作業③
16	何を目指すか:ディレクターとしての自分の適性・方向性・やりたいことを探す具体的な実技作業④
17	総復習・総点検(ディレクターの基礎は身に付きましたか。2年生に向けての準備)をしましょう。

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	TVディレクター学科	
科目番号	0213	科目名	ドラマ制作実習		科目区分	専任 実務教員	
科目群	専門	担当講師	金田和樹		履修区分	選択必修	
開講学年	2年	開講学期	通年	単位数	6	授業形態	実習
教科書	なし			参考書			
成績評価	提出課題 60% 授業姿勢 20% 出席 20%						

### 1. 授業概要

ドラマ制作の基礎を学ぶことにより、ドラマのみならずバラエティーの再現シーンなども含め、いろいろな番組制作に対応できるような考え方・手法を身につける。チームの中で役割を果たすことや、状況に応じての対応など、実践的に行動することを意識しつつ、さらに、発展させて考えられるようになる。そして、社会に出ていく上で「企業が欲しい人材・ともに働きたい仲間」とは何か、特にテレビ制作者として何を大切にし、どんなことに気を付け、今後を見据えていくか、自ら考察できるよう導く。さらに、講師のドラマ制作の現場での経験を活かし、企画・台本作り、コンテ作成、撮影・編集などでのノウハウ、仕事生きた知識を教えることが出来る。現場で活躍する作家や、演出家、俳優らを授業に参加させ、学生が本物を目の当たりにして学習できる場を用意していく。

### 2. 到達目標

ドラマを通じ、社会人になった時に制作現場で自ら進んで判断・行動できるように、経験を積む。

### 3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス。ドラマとは何か、考え方、総論。
2	ドラマの企画書。発想。アピールポイント。
3	企画書に込められた制作者の思い・熱意。
4	企画書。表紙の作り方。企画意図について。リサーチ。
5	企画書。登場人物の掘り下げ。履歴書作り。
6	企画書。ストーリーの書き方。
7	企画書講評。
8	台本作成。柱の立て方。
9	台本作成。セリフとト書き。
10	台本作成。主観と客観。
11	コンテ作成。サイズとアングル。
12	コンテ作成。アクションカット。
13	コンテ作成。ドリー、ズーム、パンワーク。
14	編集。基本のつなぎ。ズリ上げ、ズリ下げ。
15	編集。様々な手法。
16	MA、音楽、効果音。フェードとカット。
17	前期ふりかえり。
後期	
1	ディレクター論、演出プラン、判断と統率。
2	スタッフ論、制作スケジュール、予算や許可申請。
3	美打ち、ロケハンについて。
4	ミニドラマ企画、役割分担。
5	ミニドラマ台本作成1。

6	ミニドラマ台本作成2。
7	ミニドラマロケハン・美打ち。
8	ミニドラマリハーサル。
9	ミニドラマ撮影。
10	ミニドラマ編集。講評。
11	卒業制作ドラマ1。
12	卒業制作ドラマ2。
13	卒業制作ドラマ3。
14	卒業制作ドラマ4。
15	卒業制作ドラマ5。
16	卒業制作ドラマ6。
17	卒業制作ドラマ講評。ドラマ制作経験を生かすために、まとめ。

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	クロスメディア情報学科
科目番号	0206	科目名	プログラミングⅡ	科目区分	専任 実務教員
科目群	専門科目	担当講師	青山留美	履修区分	必修
開講学年	1年	開講学期	後期	単位数	6
教科書	本格学習 Java 入門 改訂3版		参考書		
成績評価	平常点 25%、定期試験（中間 35%）、授業の課題 5%、最終課題 35%				

### 1. 授業概要

プログラミング言語 Java を用いてプログラミングの基礎を学ぶ。担当講師が実務教員としてこれまでの開発経験で培った、java のプログラミング方法や作法を学生に伝える。

### 2. 到達目標

プログラム言語「Java」を通じてプログラミングの基礎を身につけ、プログラミングする際の問題解決手順であるアルゴリズムも同時に習得する。

### 3. 授業計画

後期	
1	第7章 メソッドの復習 プログラムの入力と実行、メソッドの基本、引数と戻り値
2	メソッドの復習続き オーバーロード、メソッド呼び出し
3	第8章 クラス オブジェクト、インスタンス、コンストラクタ
4	クラス+α 三匹の子豚を題材にクラスを作成する
5	クラスの続き クラスの継承、ラッパークラス、パッケージ
6	クラスの続き static 修飾子、アクセス修飾子 中間試験範囲の復習
7	中間試験
8	第9章 例外処理 例外の種類と補足、例外クラスの作成方法
9	第10章 データの入出力 コマンドライン引数、Scanner のデータ入力、ファイルへの入出力第
10	11章 マルチスレッド シングルとマルチの違い。 スレッドクラスの継承と Runnable インタフェースを使ったマルチスレッド化及び同期について
11	第12章 ネットワークプログラミング ネットワークインターフェースやアドレス、ポート番号、ソケットなど用語の解説と通信の仕組み クライアントとサーバのプログラムを作成して通信する。
12	ネットワークの続き プログラムを改良し複数クライアントに対応
13	13章 GUIとイベント処理 Swing で Java の GUI 作成、レイアウト、イベント処理について理解する
14	イベント処理の続き アニメーション作成
15	期末向け振り返り問題
16	期末試験
17	最終課題提出

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学 科 名	クロスメディア情報学科
科目番号	0301	科 目 名	モバイルプログラミング	科目区分	専任 実務教員
科 目 群	総合科目	担当講師	青山留美	履修区分	選択必修
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	2
教 科 書	なし		参考書	Android アプリ開発の教科書	
成績評価	平常点 20%、定期試験 30%、授業課題 10%、期末課題 40%				

### 1. 授業概要

Android アプリの制作を通してモバイルアプリの基礎を学ぶ。担当する講師のプログラマとしての経験を活かし、柔軟な考えで指導が可能。新しいことに取り組むことの楽しさを学生に伝えている。

### 2. 到達目標

Android アプリの制作を通してモバイルアプリの基礎と Android Studio の使い方を学ぶ

### 3. 授業計画

前期	
1	モバイル OS の基本知識と環境構築 (Android Studio のインストール)
2	Android Studio の概要と使い方 画面部品サンプルアプリを作成
3	イベントとリスナーについて ボタンタップイベントのサンプル作成 リストビューについて
4	Android のダイアログについて サンプルを作成し使い方を学ぶ
5	ConstraintLayout についてサンプルを作成しツールの使い方を学ぶ
6	多言語対応アプリを作る 中間試験の範囲を復習
7	中間試験
8	Android アプリのライフサイクルとインテントとログレベルについて学ぶ
9	MediaPlayer クラスを使ったサンプルでメディア再生について学ぶ
10	Kotlin の特徴と文法
11	Kotlin でアプリを作る メニュー決めアプリ
12	カメラとの連携 実機デバッグ及びアプリケーションのビルドについて
13	アプリの公開方法を学ぶ
14	クロスプラットフォームのアプリ開発 1 cordova の環境設定
15	クロスプラットフォームのアプリ開発 2 cordova を使ったサンプル作成
16	最終課題作成 (テーマを決める。複数ページ、他機能(ブラウザ)起動ボタン、画像と文字の表示を実装したものを作る)
17	最終課題作成の続き

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学 科 名	クロスメディア情報学科		
科目番号	0303	科 目 名	新技術演習		科目区分	兼任 実務教員	
科 目 群	専門科目	担当講師	山中 修		履修区分	選択必修	
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	演習
教科書	なし			参考書			
成績評価	平常点 20%、定期試験 30%・提出課題 50%						

### 1. 授業概要

3D ソフトである MAYA を使って 3D ソフトの基本的な使い方を習得する。講師の企業での実務経験を活かして、ビジネスの現場で必要とされる実践的な 3D ソフトの使い方を学ぶことができる

### 2. 到達目標

3D モデリング技術の習得と光効果などを使った 3D 空間の作成

### 3. 授業計画

前期	
1	1 3D ソフトの紹介
2	2 Basic : 基本操作→インタフェースの名称と役割を知る
3	3 Basic : 基本オブジェクトの作成および編集方法 (移動、拡大、回転など)
4	4 Basic : 基本オブジェクトの組み合わせで立体オブジェクトを作る (動物や車など)
5	5 Basic : 4 の続き演習および制作物講評
6	6 ポリゴンモデリングの実際 : イントロ (コンポーネント要素説明ほか)
7	7 ポリゴンモデリングの実際 : 押し出しなどの基本操作
8	8 課題作成実習 1 :
9	9 課題作成実習 2 :
10	10 ポリゴンモデリング : 制作物および各自アドバイス
11	11 キャラクター制作実習 : イントロ
12	12 キャラクター制作手順解説 : スケッチ方法など
13	13 キャラクター課題制作実習 1
14	14 キャラクター課題実習 2
15	15 キャラクター制作物 : 講評および各自アドバイス
16	課題
17	

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	電気電子学科	
科目番号	0206	科目名	電子回路1		科目区分	専任 実務教員	
科目群	電気電子理論	担当講師	秋田谷 徳靖		履修区分	必修	
開講学年	1年	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教科書	電子回路概論. 実教出版			参考書			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）80%、平常点（課題提出）や授業への貢献度 20%						

1. 授業概要

担当教員の実務を活かして半導体素子の役割とアナログ電子回路について学習する。担当教員はコンピュータ関連企業（ハードウェア保守部門5年、データセンターとファシリティーの計画、設計、構築部門17年）及びスーパーゼネコン（ICTシステム・エンジニアリング部門2年）の勤務経験があり教員が、ハードウェア技術の実務者の観点から、様々な電子回路について解説する。

2. 到達目標

半導体素子の役割を理解し、増幅回路の設計ができるようになる。

3. 授業計画

前期	
1	半導体と原子、自由電子と正孔の働き、半導体の種類、キャリアのふるまい、pn接合
2	pn接合ダイオード、ダイオード回路、ダイオードの最大定格、ダイオードの利用
3	トランジスタの基本構造、トランジスタの基本動作
4	トランジスタの静特性、トランジスタの最大定格
5	接合形FET、MOS FET、サイリスタ、ホトトランジスタ、その他の半導体素子
6	集積回路（IC）の製造と分類、集積回路の特徴と分類
7	増幅の原理、増幅器の分類
8	トランジスタによる増幅の原理、トランジスタの基本増幅回路
9	トランジスタのhパラメータと小信号等価回路
10	中間試験
11	バイアス回路の安定度、バイアス回路の種類と特徴
12	トランジスタによる小信号増幅回路の基本特性
13	トランジスタによる小信号増幅回路のバイアス回路の設計
14	電圧増幅度と入出力インピーダンス、結合コンデンサとバイパスコンデンサの計算
15	接合形FETの小信号基本増幅回路と等価回路、バイアス回路、増幅器のバイアスと回路特性
16	負帰還の原理、エミッタ抵抗による負帰還、エミッタホロワ、多段増幅回路の負帰還
17	差動増幅回路の概要、演算増幅器の特性と等価回路、演算増幅器の基本的な使いかた
18	電力増幅回路の基礎、A級シングル電力増幅回路、B級プッシュプル電力増幅回路
19	高周波増幅の基礎、高周波増幅回路の特性
20	期末試験

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	電気電子学科	
科目番号	0207	科目名	電子回路2		科目区分	専任 実務教員	
科目群	電気電子理論	担当講師	秋田谷 徳靖		履修区分	必修	
開講学年	1年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教科書	電子回路概論. 実教出版			参考書			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）80%、平常点（課題提出）や授業への貢献度 20%						

1. 授業概要

担当教員の実務を活かしアナログ電子回路の様々な応用について学習する。担当教員はコンピュータ関連企業（ハードウェア保守部門5年、データセンターとファシリティーの計画、設計、構築部門17年）及びスーパーゼネコン（ICTシステム・エンジニアリング部門2年）の勤務経験があり教員が、ハードウェア技術の実務者の観点から、様々な電子回路について解説する。

2. 到達目標

デジタル回路や通信工学、データ通信の学習に必要な基礎技術を説明できる。

3. 授業計画

後期	
1	発振回路のなりたち、発振回路の原理、発振回路の分類
2	反結合発振回路、ハートレー発振回路、コルピッツ発振回路
3	ウィーンブリッジ形発振回路の原理と実際例、CR位相形発振回路
4	水晶振動子、水晶発振回路の種類と特徴、水晶発振回路の実際例
5	VCOの原理、PLL回路
6	変調・復調の意味、変調・復調の種類
7	振幅変調（AM）の基礎、振幅変調波の電力、振幅変調回路、振幅変調波の復調
8	周波数変調（FM）、周波数変調波の復調
9	位相変調（PM）・復調、パルス変調の種類
10	中間試験
11	パルス波形、パルスの応答
12	非安定マルチバイブレータ、単安定マルチバイブレータ
13	双安定マルチバイブレータ、ICを用いたマルチバイブレータ
14	クリップ、リミタ
15	スライサ、シュミットトリガ回路
16	制御形電源回路の構成、変圧回路、いろいろな整流回路
17	コンデンサ平滑回路、電源回路の諸特性
18	直列制御安定化回路、3端子レギュレータ
19	スイッチング制御、チョップ形スイッチング電源回路、制御形電源回路との比較
20	期末試験

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学 科 名	電気電子学科	
科目番号	0208	科 目 名	デジタル回路 1		科目区分	専任 実務教員	
科 目 群	電気電子理論	担当講師	秋田谷 徳靖		履修区分	選択必修	
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	デジタル回路の基礎 森北出版株式会社		参考書	デジタル回路. コロナ社			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）80%、平常点（課題提出）や授業への貢献度 20%						

### 1. 授業概要

デジタル回路とストアードプログラム方式のコンピュータシステムの基本的事項を理解する。担当教員はコンピュータ関連企業（ハードウェア保守部門 5 年、データセンターとファシリティの計画、設計、構築部門 17 年）及びスーパーゼネコン（ICT システム・エンジニアリング部門 2 年）で勤務経験のある教員が、ハードウェア技術の実務者の観点から、位取り記数法とブール代数、ブール関数について解説する。

### 2. 到達目標

人工知能（AI）を動かしているデジタル回路技術を理解する。

### 3. 授業計画

前期	
1	コンピュータのなりたち
2	2進数、10進数、16進数
3	論理代数（1）
4	論理代数（2）
5	2進数の加減算
6	論理回路
7	加算器
8	減算器
9	演算回路
10	桁上げ先見加算器
11	フリップフロップ回路
12	カウンタ回路
13	レジスタ回路
14	メモリ
15	状態と状態遷移
16	順序回路
17	乗算器の制御回路
18	ソフトウェアとハードウェアのインターフェース、コンピュータの命令
19	命令セットの例
20	Cプログラムの命令への展開

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学 科 名	電気電子学科	
科目番号	0209	科目名	デジタル回路2		科目区分	専任 実務教員	
科目群	電気電子理論	担当講師	秋田谷 徳靖		履修区分	選択必修	
開講学年	2年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教科書	デジタル回路の基礎. 森北出版株式会社		参考書	デジタル回路. コロナ社			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）80%、平常点（課題提出）や授業への貢献度 20%						

### 1. 授業概要

担当教員の実務を活かしスマート保安人材に求められるデジタル技術を学習する。担当教員はコンピュータ関連企業（ハードウェア保守部門5年、データセンターとファシリティの計画、設計、構築部門17年）及びスーパーゼネコン（ICTシステム・エンジニアリング部門2年）で勤務経験があり、ハードウェア技術の実務者の観点から、基本論理素子による回路設計とコンピュータの設計について解説する。

### 2. 到達目標

人工知能（AI）に必要なコンピュータで用いられる代表的な回路が設計できる。

### 3. 授業計画

後期	
1	基本論理素子と論理回路記号、論理回路の設計
2	組み合わせ回路の設計手順、AND・OR 2段回路とOR・AND 2段回路
3	ブール代数の完全系、NAND 2段回路、NOR 2段回路
4	ファンインとファンアウト、ファンインに制限のある場合の組み合わせ回路の構成法
5	組み合わせ回路と順序回路の違い、順序回路の表し方
6	順序回路の定義、状態割り当て
7	フリップフロップの基礎、RSフリップフロップ、クロック付RSフリップフロップ
8	JKフリップフロップ、Dフリップフロップ、Tフリップフロップ、動作の解析
9	順序回路の設計手順、フリップフロップの励起表の作成、励起表を用いた順序回路の設計
10	中間試験
11	同期式カウンタ
12	非同期式カウンタ
13	レジスタ
14	基本加算回路
15	多桁の加算回路
16	減算回路と加減算回路
17	比較回路
18	エンコーダとデコーダ
19	マルチプレクサとデマルチプレクサ
20	期末試験

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」						学 科 名	電気電子学科
科目番号	0407	科目名	通信工学			科目区分	専任 実務教員
科目群	電気利用伝送処理	担当講師	秋田谷 徳靖			履修区分	選択必修
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教科書	分かりやすい通信工学. コロナ社			参考書	わかる AI・DD 全資格[基礎]改訂版. リックテレコム		
成績評価	試験（中間試験、期末試験）80%、平常点（課題提出）や授業への貢献度 20%						

1. 授業概要

担当教員の実務を活かし有線電気通信工学に関する技術と、その周辺技術について学習をする。担当教員はコンピュータ関連企業（ハードウェア保守部門 5年、データセンターとファシリティの計画、設計、構築部門 17年）及びスーパーゼネコン（ICT システム・エンジニアリング部門 2年）での勤務経験があり、電気通信技術の実務者の観点から、信号の伝送や電話機、通信ケーブル等について解説する。

2. 到達目標

スマート保安人材に必要な電気通信の技術的知識を説明でき、伝送量などの計算ができる。

3. 授業計画

前期	
1	通信システムの概要、通信システム、通信ネットワーク
2	アナログ伝送とデジタル伝送、通信の多重化方式
3	電話機、交換機
4	通信ケーブルの特性、通信ケーブルの種類と構造
5	データ通信システム、データ伝送方式、モデム、伝送制御、プロトコルと階層モデル、I SDN
6	光半導体の特性、光ファイバによる光の伝搬と光ファイバの種類、光通信システム
7	電気通信事業法の概要、有線電気通信法の概要
8	伝送量の計算法、1次定数と分布定数回路、インピーダンス整合
9	演習：伝送量の計算、インピーダンス整合
10	中間試験
11	反射、反響、漏話減衰量の計算
12	接続品質、安定品質、伝送品質
13	ひずみ、雑音、各種ケーブルの伝送特性
14	無線通信の概要、電波とアンテナ、AM、FM、レーダ
15	ファクシミリ
16	テレビジョン
17	マルチメディア通信技術
18	通信装置の入出力機器
19	演習：漏話減衰の計算、ケーブルの漏話特性、電力線からの誘導作用、ひずみ、反射
20	期末試験

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学 科 名	電気電子学科	
科目番号	0408	科目名	データ通信		科目区分	専任 実務教員	
科目群	電気利用伝送処理	担当講師	秋田谷 徳靖		履修区分	選択必修	
開講学年	2年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教科書	通信ネットワーク技術の基礎と応用. コロナ社			参考書			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）80%、平常点（課題提出）や授業への貢献度 20%						

### 1. 授業概要

担当教員の実務を活かしデータ通信工学の基本技術を学習する。担当教員はコンピュータ関連企業（ハードウェア保守部門5年、データセンターとファシリティーの計画、設計、構築部門17年）及びスーパーゼネコン（ICTシステム・エンジニアリング部門2年）での勤務経験があり、電気通信技術の実務者の観点から、ネットワークアーキテクチャや各種アクセス方式、データセンターやネットワークについて解説する。

### 2. 到達目標

スマート保安人材に必要なデータ通信技術の基礎知識を説明できる。

### 3. 授業計画

後期	
1	ネットワーク発展の経緯
2	ネットワーク要素と基本機能、階層モデル、ネットワークアーキテクチャ
3	各種ネットワーク、トランスポート層におけるコネクション
4	ネットワークの構造と形態、トポロジー、物理リンクと論理リンク
5	ナイキストの定理、音声符号化
6	オーディオ情報符号化、画像符号化
7	xDSL、光アクセス、ケーブルアクセス、ISDN アクセス
8	無線アクセス、携帯電話
9	デジタル伝送技術
10	多重伝送技術
11	マルチアクセス制御
12	マルチアクセスプロトコル
13	電話番号、経路制御、電話交換の原理、輻輳制御
14	インターネット、IP アドレス、経路制御
15	インターネットのトランスポート層、UDP、TCP
16	通信トラヒックと呼量、交換機出回線数、トラヒック設計
17	IP 電話の基本構成、H.323 制御プロトコル、SIP
18	NGN の基本構造、NGN アーキテクチャ
19	データセンタネットワークと SDN、サービスチューニング
20	IoT ネットワーク、スマートグリッド

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学 科 名	建築学科
科目番号	0304	科 目 名	都市計画	科目区分	専任・実務教員
科 目 群	建築計画	担当講師	小川 貴之	履修区分	講義
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	2
教 科 書	『都市計画とまちづくりがわかる本』伊藤雅春他 彰国社		教材・参考書：随時プリントを配布		
成績評価	試験（中間試験、期末試験）、平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。				

### 1. 授業概要

歴史的、技術的な側面から、都市計画・まちづくりの基本を学ぶ。担当教員は、都市計画マスタープラン策定委員に関わった経験があり、都市計画、まちづくりの実務経験に基づき実際の業務に近い授業を展開する。

### 2. 到達目標

事例を通して、都市計画、まちづくりの手法や法規的制約などの知識が習得できる。  
講義形式を基本とするが、KJ法を用いたワークショップを行うなど実用的な学習も体験する

### 3. 授業計画

後期	
1	ガイダンス（授業概要説明）
2	都市とは何か。都市計画、まちづくりの定義
3	世界の都市計画史と思潮-1 古代～近世まで
4	日本の都市計画史と思潮-2 近代～現代まで
5	日本の都市計画史と思潮
6	都市計画史まとめ
7	都市計画の枠組み-1 都市計画と関連法規
8	都市計画の枠組み-2 都市計画法の位置づけと体系
9	都市計画の枠組み-3 都市のマスタープランについて
10	都市計画の枠組み-4 区画整理事業、開発許可制度について
11	都市計画の枠組み-5 地区計画、建築協定について
12	関連法規事例紹介、まとめ
13	諸外国の都市計画制度
14	参加のデザインとまちづくり 事例紹介
15	参加のデザインとまちづくり ワークショップ体験-1
16	参加のデザインとまちづくり ワークショップ体験-2
17	テーマ別まちづくり-1
18	テーマ別まちづくり-2

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	建築学科	
科目番号	0801	科目名	設計製図 I		科目区分	専任・実務教員	
科目群	設計製図	担当講師	星裕一郎 井上静 萩原秀規		履修区分	実習	
開講学年	1年	開講学期	通年	単位数	8	授業形態	必修
教科書	超入門 建築製図			教材・参考書 参考図面を適宜配布			
成績評価	全課題提出による評価 100%						

### 1. 授業概要

製図の基本となる線の引き方、線の種類や太さ、製図記号のルールを学習する。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。

### 2. 到達目標

各種図面の表現方法を木造・RC造ごとにコピーとオリジナル設計をすることで修得する。  
課題に基づいた実習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実務に近いプロセスを経験する課題を行う。

### 3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション (用具の使い方など)
2	課題－1：「製図の基本」線，文字，記号の練習
3	「製図の基本」線，文字，記号の練習
4	「製図の基本」線，文字，記号の練習
5	課題－2：製図の表現
6	製図の表現
7	製図の表現
8	課題－3：RCの演習 その1 店舗
9	RCの演習 その1
10	RCの演習 その1
11	RCの演習 その1
12	課題－4：RCの演習 その2 住宅
13	RCの演習 その2
14	RCの演習 その2
15	課題－5：RCカフェの設計 その1
16	RCカフェの設計 その1
17	RCカフェの設計 その1
18	RCカフェの設計 その1
後期	
1	課題－6：木造住宅のコピー その1
2	木造住宅のコピー その1
3	木造住宅のコピー その1
4	木造住宅のコピー その1
5	木造住宅のコピー その1
6	課題－7：木造住宅のコピー その2
7	木造住宅のコピー その2
8	木造住宅のコピー その2
9	木造住宅のコピー その2

10	木造住宅のコピー その2
11	木造住宅のコピー その2
12	課題－8：木造住宅兼店舗の設計
13	木造住宅兼店舗の設計
14	木造住宅兼店舗の設計
15	木造住宅兼店舗の設計
16	木造住宅兼店舗の設計
17	木造住宅兼店舗の設計
18	木造住宅兼店舗の設計

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築学科
科目番号	0802	科目名	設計製図Ⅱ	科目区分	専任・実務教員
科目群	設計製図	担当講師	小川貴之 他	履修区分	実習
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	4
教科書	建築製図	教材・参考書 プリント・写真・建築雑誌			
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。				

### 1. 授業概要

各課題を通して、製図方法、技術的課題、空間の把握を学ぶ。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。

### 2. 到達目標

コンセプトから具体的建築へと展開する設計のプロセスを身につける。  
課題に基づいた演習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実際の実務に近いプロセスを経験する課題を行う。

### 3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション 講師事例紹介、構造別講義
2	第1課題「集まって住む（集合住宅）」 課題説明、事例調査、敷地模型制作
3	事例発表、エスキスチェック
4	エスキスチェック
5	作図1（平面図・断面図・立面図）
6	作図2（平面図・断面図・立面図）
7	作図3（まとめ）
8	プレゼンテーション準備
9	発表
10	第2課題「保育園の設計」 課題説明、事例調査
11	事例発表、エスキスチェック
12	エスキスチェック
13	エスキスチェック
14	作図1（平面図・断面図・立面図）
15	作図2（平面図・断面図・立面図）
16	作図3（まとめ）
17	プレゼンテーション準備
18	発表

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築学科		
科目番号	1001	科目名	パースペクティブ		科目区分	兼任・実務教員	
科目群	造形基礎	担当講師	牟禮智絵子 足立真輝 井上静		履修区分	演習	
開講学年	1年	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	必修
教科書	基本・建築製図と表現方法		教材・参考書 プリント				
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。						

### 1. 授業概要

軸測投影法（アクソメトリック）、透視図法（1消点透視法、2消点透視法）の表現方法を学ぶ。課題に基づいた演習とするが、有名建築を題材とし、クライアントへのプレゼンテーションに活かせる手法を学ぶ。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいたプレゼンテーション手法を指導する。

### 2. 到達目標

視覚表現による他者とのコミュニケーション力の修得する

### 3. 授業計画

前期	
1	はじめに（自己紹介、授業内容、目標）
2	建築の仕事、パースの仕事、スケッチ演習
3	スケッチ演習発表
4	軸測投影法（アクソメトリック）・ブロック1
5	軸測投影法（アクソメトリック）・ブロック2
6	軸測投影法（アクソメトリック）・立方体1
7	軸測投影法（アクソメトリック）・立方体2
8	軸測投影法（アクソメトリック）・室内
9	色・着彩（1）
10	色・着彩（2）
11	軸測投影法（課題）
12	軸測投影法（課題）
13	軸測投影法（課題）
14	軸測投影法（課題）
15	軸測投影法（課題）
16	色・着彩（1）
17	色・着彩（2）
18	軸測投影法・まとめ
19	夏休み課題（講評会）
20	1消点透視法（パース）1
21	1消点透視法（パース）2
22	2消点透視法（パース）1
23	2消点透視法（パース）2
24	2消点透視法（課題）ビル
25	2消点透視法（課題）ビル
26	2消点透視法（課題）ビル
27	2消点透視法（課題）ビル

28	2 消点透視法 (課題) ビル (着彩)
29	2 消点透視法 (課題) ビル (着彩)
30	2 消点透視法 (応用) 1
31	2 消点透視法 (応用) 2
32	2 消点透視法 (応用) 3
33	2 消点透視法 (応用) 4
34	簡易パースの演習 1
35	簡易パースの演習 2
36	消点透視法まとめ

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0204	科目名	都市計画	科目区分	専任・実務系教員
科目群	建築計画	担当講師	小川 貴之	履修区分	講義
開講学年	2年	開講学期	後期	単位数	2
教科書	『都市計画とまちづくりがわかる本』伊藤雅春他 彰国社		教材・参考書：随時プリントを配布		
成績評価	試験（中間試験、期末試験）、平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。				

### 1. 授業概要

歴史的、技術的な側面から、都市計画・まちづくりの基本を学ぶ。  
講義形式を基本とするが、KJ法を用いたワークショップを行うなど実用的な学習も体験する。担当教員は、都市計画マスタープラン策定委員に関わった経験があり、都市計画、まちづくりの実務経験に基づき実際の業務に近い授業を展開する。

### 2. 到達目標

事例を通して、都市計画、まちづくりの手法や法規的制約などの知識が習得できる。

### 3. 授業計画

後期	
1	ガイダンス（授業概要説明）
2	都市とは何か。都市計画、まちづくりの定義
3	世界の都市計画史と思潮-1 古代～近世まで
4	日本の都市計画史と思潮-2 近代～現代まで
5	日本の都市計画史と思潮
6	都市計画史まとめ
7	都市計画の枠組み-1 都市計画と関連法規
8	都市計画の枠組み-2 都市計画法の位置づけと体系
9	都市計画の枠組み-3 都市のマスタープランについて
10	都市計画の枠組み-4 区画整理事業、開発許可制度について
11	都市計画の枠組み-5 地区計画、建築協定について
12	関連法規事例紹介、まとめ
13	諸外国の都市計画制度
14	参加のデザインとまちづくり 事例紹介
15	参加のデザインとまちづくり ワークショップ体験-1
16	参加のデザインとまちづくり ワークショップ体験-2
17	テーマ別まちづくり-1
18	テーマ別まちづくり-2

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	建築科	
科目番号	0701	科目名	設計製図 I		科目区分	専任・実務経験教員	
科目群	設計製図	担当講師	星裕一郎・萩原 秀規 他		履修区分	実習	
開講学年	1年	開講学期	通年	単位数	8	授業形態	必修
教科書	超入門 建築製図			教材・参考書：プリント配布、必携建築資料			
成績評価	課題図面全提出による評価 100%						

### 1. 授業概要

製図の基本となる線の引き方、線の種類や太さ、製図記号のルールを学習する。課題に基づいた実習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実務に近いプロセスを経験する課題を行う。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。

### 2. 到達目標

各種図面の表現方法を木造・RC造ごとにコピーとオリジナル設計をすることで修得する。

### 3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション（用具の使い方など）
2	課題－1：「製図の基本」線，文字，記号の練習
3	「製図の基本」線，文字，記号の練習
4	「製図の基本」線，文字，記号の練習
5	課題－2：製図の表現
6	製図の表現
7	製図の表現
8	課題－3：RCの演習 その1 店舗
9	RCの演習 その1
10	RCの演習 その1
11	RCの演習 その1
12	課題－4：RCの演習 その2 住宅
13	RCの演習 その2
14	RCの演習 その2
15	課題－5：RCカフェの設計 その1
16	RCカフェの設計 その1
17	RCカフェの設計 その1
18	RCカフェの設計 その1
後期	
1	課題－6：木造住宅のコピー その1
2	木造住宅のコピー その1
3	木造住宅のコピー その1
4	木造住宅のコピー その1
5	木造住宅のコピー その1
6	課題－7：木造住宅のコピー その2
7	木造住宅のコピー その2
8	木造住宅のコピー その2
9	木造住宅のコピー その2

10	木造住宅のコピー その2
11	木造住宅のコピー その2
12	課題－8：木造住宅兼店舗の設計
13	木造住宅兼店舗の設計
14	木造住宅兼店舗の設計
15	木造住宅兼店舗の設計
16	木造住宅兼店舗の設計
17	木造住宅兼店舗の設計
18	木造住宅兼店舗の設計

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0702	科目名	設計製図Ⅱ	科目区分	専任・実務経験教員
科目群	設計製図	担当講師	牟禮 智恵子・藤田 修司・萩原秀規	履修区分	実習
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	4
教科書	建築製図		教材・参考書 プリント・写真・建築雑誌		
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。				

### 1. 授業概要

課題を通して、製図方法、技術的課題、空間の把握を学ぶ。課題に基づいた演習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実際の実務に近いプロセスを経験する課題を行う。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。

### 2. 到達目標

コンセプトから具体的建築へと展開する設計のプロセスを身につける。

### 3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション 講師事例紹介、構造別講義
2	第1課題「集まって住む(集合住宅)」 課題説明、事例調査、敷地模型制作
3	事例発表、エスキスチェック
4	エスキスチェック
5	エスキスチェック
6	エスキスチェック
7	中間発表
8	プレゼンテーション準備
9	作図1(平面図・断面図・立面図)
10	作図2(平面図・断面図・立面図)
11	作図3(平面図・断面図・立面図)
12	作図4(まとめ)
13	プレゼンテーション準備1(作図、模型製作など)
14	プレゼンテーション準備2(作図、模型製作など)
15	プレゼンテーション準備3(作図、模型製作など)
16	プレゼンテーション準備4(作図、模型製作など)
17	プレゼンテーション準備5(作図、模型製作など)
18	発表

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0901	科目名	パースペクティブ	科目区分	専任 実務教員
科目群	造形基礎	担当講師	牟禮 智絵子・足立 真輝	履修区分	演習
開講学年	1年	開講学期	前期	単位数	4
教科書	基本・建築製図と表現方法		教材・参考書 プリント		
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。				

### 1. 授業概要

軸測投影法（アクソノメトリック）、透視図法（1消点透視法、2消点透視法）の表現方法を学ぶ。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいたプレゼンテーション手法を指導する。

### 2. 到達目標

視覚表現による他者とのコミュニケーション力の修得する

### 3. 授業計画

前期	
1	はじめに（自己紹介、授業内容、目標）
2	建築の仕事、パースの仕事、スケッチ演習
3	スケッチ演習発表
4	軸測投影法（アクソノメトリック）・ブロック1
5	軸測投影法（アクソノメトリック）・ブロック2
6	軸測投影法（アクソノメトリック）・立方体1
7	軸測投影法（アクソノメトリック）・立方体2
8	軸測投影法（アクソノメトリック）・室内
9	色・着彩（1）
10	色・着彩（2）
11	軸測投影法（課題）
12	軸測投影法（課題）
13	軸測投影法（課題）
14	軸測投影法（課題）
15	軸測投影法（課題）
16	色・着彩（1）
17	色・着彩（2）
18	軸測投影法・まとめ
19	夏休み課題（講評会）
20	1消点透視法（パース）1
21	1消点透視法（パース）2
22	2消点透視法（パース）1
23	2消点透視法（パース）2
24	2消点透視法（課題）ビル
25	2消点透視法（課題）ビル
26	2消点透視法（課題）ビル
27	2消点透視法（課題）ビル
28	2消点透視法（課題）ビル（着彩）

29	2 消点透視法 (課題) ビル (着彩)
30	2 消点透視法 (応用) 1
31	2 消点透視法 (応用) 2
32	2 消点透視法 (応用) 3
33	2 消点透視法 (応用) 4
34	簡易パースの演習 1
35	簡易パースの演習 2
36	消点透視法まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学 科 名	臨床工学科
科目番号	5	科 目 名	基礎物理学	科目区分	専任 実務教員
科 目 群	基礎分野	担当講師	沢田 雄太	履修区分	必修
開講学年	1年	開講学期	前期	単位数	1
教 科 書	まるわかり 基礎物理 (南山堂)		参考書	なし	
成績評価	試験 (期末試験、小テスト) 90%、平常点や授業への貢献度 10%				

1. 授業概要

医療機器の原理に必要な物理学の知識を基礎から身につける。講師は、企業において電気・電子回路設計に従事しており、そこで得た、物理的知識の知識・経験を学生にフィードバックしている。

2. 到達目標

臨床工学に必要な物理の知識を身につけることで医療工学の応用につなげる。

3. 授業計画

前期	
1	単位と有効数字
2	等速直線運動
3	等加速度直線運動
4	落下運動
5	物体に働く力
6	摩擦力
7	斜面
8	仕事とエネルギー1
9	仕事とエネルギー2
10	温度と熱
11	気体の法則
12	波と音
13	ドップラー効果
14	光
15	期末試験

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	臨床工学科	
科目番号	8	科目名	物理・化学実習		科目区分	専任	
科目群	基礎分野	担当講師	三堀雅弥、山本克之、沢田雄太		履修区分	必修	
開講学年	1年	開講学期	後期	単位数	1	授業形態	実習
教科書	実習書を配布			参考書	なし		
成績評価	レポート 90%、発表評価 10%						

1. 授業概要

授業で学ぶ化学や物理の知識について実習を通して理解する。担当講師は企業において電気・電子回路設計に従事しており、そこで得た、物理的知識の知識・経験を学生にフィードバックしている。

2. 到達目標

授業で学んだ公式や原理について実習を通して理解する。

3. 授業計画

1	オリエンテーション
2	オリエンテーション
3	化学実習テーマ①（化学実験機材の使い方）
4	化学実習テーマ①（化学実験機材の使い方）
5	化学実習テーマ②（中和滴定）
6	化学実習テーマ②（中和滴定）
7	化学実習テーマ③（中和熱、溶解熱、反応熱）
8	化学実習テーマ③（中和熱、溶解熱、反応熱）
9	化学実習テーマ④（沈殿滴定）
10	化学実習テーマ④（沈殿滴定）
後期	
11	物理実習テーマ①（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
12	物理実習テーマ①（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
13	物理実習テーマ②（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
14	物理実習テーマ②（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
15	物理実習テーマ③（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
16	物理実習テーマ③（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
17	物理実習テーマ④（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
18	物理実習テーマ④（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
19	発表準備
20	発表準備
21	発表準備
22	発表準備
23	実習内容発表 1
24	実習内容発表 2
25	実習内容発表 3
26	実習内容発表 4

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	臨床工学科	
科目番号	26	科目名	電気工学実習		科目区分	専任 実務教員	
科目群	専門基礎	担当講師	沢田雄太、三堀雅弥、田口翔太郎		履修区分	必修	
開講学年	1年	開講学期	後期	単位数	1単位	授業形態	実習
教科書	実習書配布			参考書	なし		
成績評価	レポート 90%、発表評価 10%						

1. 授業概要

臨床工学に必要な電気工学の基礎について実習を通して理解する。担当講師は、企業において電気・電子回路設計に従事しており、そこで得た、電気回路・電子回路の知識・経験を学生にフィードバックしている。

2. 到達目標

直流、交流、過渡現象、共振などを再現し、実習を通して理解する。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション
2	オリエンテーション
3	オシロスコープの使い方
4	オシロスコープの使い方
5	テーマ①（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
6	テーマ①（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
7	テーマ②（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
8	テーマ②（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
9	テーマ③（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
10	テーマ③（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
11	テーマ④（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
12	テーマ④（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
13	発表準備①
14	発表準備①
15	発表準備②
16	発表準備②
17	実習内容発表
18	実習内容発表
19	実習内容発表
20	実習内容発表

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	臨床工学科	
科目番号	40	科目名	生体機能代行技術学		科目区分	専任 実務教員	
科目群	専門分野	担当講師	関根久代、佐藤由起子、井本勝久		履修区分	必修	
開講学年	2年	開講学期	通年	単位数	9単位	授業形態	講義
教科書	臨床工学講座生体機能代行装置学		参考書	臨床工学技士標準テキスト			
成績評価	試験（中間、期末）100%						

1. 授業概要

呼吸、循環、代謝に関わる生体機能代行装置の原理や操作方法、患者管理などの知識を理解する。担当講師は、病院にて臨床工学技士として勤務した経験を授業に活かし、呼吸・循環・代謝に関わる生体機能代行装置の適切な操作と保守点検を指導する。

2. 到達目標

各装置の原理、治療方法、適応疾患、操作方法、患者管理、患者の合併症に関する知識を習得する。

3. 授業計画

血液浄化学	1	血液浄化療法総論：血液浄化療法の臨床的意義、医療の中での位置づけ
	2	腎臓・尿路系の解剖整理
	3	腎機能検査：尿検査、血液検査、腎機能検査、簡易検査
	4	腎疾患と病態生理
	5	血液浄化療法の原理、構成
	6	ダイアライザーの性能評価
	7	透析膜：種類と特徴
	8	治療モード：HD、HF、HDF
	9	透析液の組成、浸透圧の計算
	10	抗凝固剤：種類
	11	バスキュラーアクセス：分類、穿刺
	12	前期のまとめ
	13	試験
	14	周辺機器：水処理、供給装置
	15	周辺機器：患者監視装置
	16	患者管理：糖尿病、高齢者
	17	患者管理：その他合併症
	18	患者管理：食事、栄養、薬物療法
	19	安全管理：水質
	20	安全管理：保守点検
	21	安全管理：事故、偶発症
	22	持続的血液浄化療法：適応、原理、膜性能
	23	持続的血液浄化療法：治療条件、膜の種類、特徴、装置
	24	腹膜透析
	25	アフエレーシス：血液吸着、血漿吸着
	26	アフエレーシス：PE、DFPP、CAP
	27	血液浄化療法を取り巻く環境：在宅、腎移植、長時間、短時間頻回、災害
	28	透析室運営：透析室の業務、他職種とのかかわり、

	29	最近のトピック
	30	試験（血液浄化）
	1	呼吸療法とは
呼吸療法学	2	ガス交換
	3	呼吸機能検査
	4	スパイロメータと排気量分画、肺コンプライアンス
	5	呼吸不全の病態生理
	6	ARDS, COPD
	7	酸素療法、ポンベ
	8	高気圧酸素療法
	9	ネブライザー、加圧加温法、人工鼻
	10	人工呼吸器回路
	11	人工呼吸器の基本原理
	12	換気方法、換気方式
	13	換気モード
	14	保守点検、トラブル対策
	15	パルスオキシメータ
	16	カプノメータ
	17	在宅呼吸療法
	18	睡眠時無呼吸症候群
	19	小児の呼吸管理
	20	麻酔器
	21	まとめ（国家試験対策 1～6項目）
	22	まとめ（国家試験対策 1～6項目）
	23	まとめ（国家試験対策 7～12項目）
	24	まとめ（国家試験対策 7～12項目）
	25	まとめ（国家試験対策 13～20項目）
	26	まとめ（国家試験対策 13～20項目）
	27	まとめ、国家試験対策
	28	まとめ、国家試験対策
	29	まとめ
	30	テスト（人工呼吸器）
	体外循環装置	1
2		Starling の法則、血管の略語、微小血管の構造、
3		心臓疾患について、動脈疾患
4		心不全とショック、心臓検査、圧波形、略語
5		人工心肺装置の構成、ローラーポンプの特徴
6		遠心ポンプの原理・特徴、流量計について
7		気泡型と膜型の回路
8		摩擦静電気とローラーポンプの組み立て実習
9		血液ガス、ドルトン分圧の法則、AG について
10		ガスの運搬、膜型人工肺
11		膜の構成、多孔質膜の特徴、膜の製造

1 2	ガス交換の調節、熱交換器、リザーバ、動脈フィルター
1 3	カニューレ、Vent 回路、静脈脱血法
1 4	送血回路（ずり応力、損失係数）回路の可塑剤
1 5	EOG について、ヘパリンコーティング、凝固機構
1 6	活性化凝固測定器、プロタミン、ヘモコン
1 7	装置の種類、心臓手術（DVD）
1 8	中間試験
1 9	生体肺の役目、初期低血圧、カテコラミンについて
2 0	低体温の特徴
2 1	サイトカインと活性化対策、MUF の方法
2 2	心筋保護について（心停止方法と保護方法）
2 3	心筋保護組成の役割、再灌流障害
2 4	希釈の特徴、代用血漿、適正灌流量
2 5	希釈の計算、心不全の分類
2 6	IABP について
2 7	PCPS について、V-V バイパス
2 8	人工心臓、動脈瘤について、事故について
2 9	期末試験（体外循環）
3 0	低侵襲 OP、人工血管について

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学 科 名	臨床工学科	
科目番号	41	科 目 名	生体機能代行技術学実習		科目区分	専任 実務教員	
科 目 群	専門分野	担当講師	関根 久代、山本 将人 他		履修区分	必修	
開講学年	3年	開講学期	前期	単位数	3単位	授業形態	実習
教 科 書	適宜プリント配布			参考書	なし		
成績評価	レポート提出 100%						

1. 授業概要

生体機能代行装置を操作することにより、座学で得られた知識をより深く理解する。担当講師は、病院にて臨床工学技士として勤務した経験を授業に活かし、呼吸・循環・代謝に関わる生体機能代行装置の適切な操作と保守点検を指導する。

2. 到達目標

生体機能代行装置の操作、保守を実際行うことにより、技術の習得につなげる。

3. 授業計画

前期	
1	呼吸療法装置 概論
2	(1) 臨床的意義
3	(2) 呼吸系の生理と病態
4	(3) 種類・原理・構造
5	(4) 医用ガスの物性と気体力学
6	(5) 呼吸療法技術
7	(6) モードの確認
8	(7) 周辺医用機器の原理と取扱
9	(8) 患者管理
10	(9) 事故事例と安全対策
11	(10)新しい機器・技術
12	(11)BIPAP
13	(12)保守点検技術
14	(13)ロールプレイング
15	(14) //
16	体外循環装置 概論
17	(1) 臨床的意義
18	(2) 循環系の生理と病態
19	(3) 種類・原理・構造
20	(4) 血液物性と流体力学
21	(5) 人工肺の物理
22	(6) 体外循環技術
23	(7) 周辺医用機器の原理と取り扱い
24	(8) IABP・PCPS
25	(9) 患者管理
26	(10)新しい機器・技術
27	(11)人工心臓
28	(12) //

29	(13)ロールプレイング
30	(14) 〃
31	血液浄化装置（人工透析装置を含む）概論
32	(1) 臨床的意義
33	(2) 代謝の生理と病態
34	(3) 血液透析患者の検査データ
35	(4) 種類・原理・構造
36	(5) 流体力学と物質輸送論
37	(6) 血液浄化の物理
38	(7) 血液浄化技術
39	(8) 周辺医用機器の原理と取り扱い
40	(9) 他の血液浄化機器について
41	(10)血液透析患者の一連の流れ
42	(11)プライミング
43	(12)除水誤差測定
44	(13)ロールプレイング
45	(14) 〃

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	臨床工学専攻科	
科目番号	13	科目名	電気工学実習		科目区分	専任 実務教員	
科目群	専門基礎	担当講師	桂尚樹、田口翔太郎、沢田雄太		履修区分	必修	
開講学年	1年次	開講学期	後期	単位数	1単位	授業形態	実習
教科書	実習書配布			参考書	なし		
成績評価	レポート評価 100%						

1. 授業概要

臨床工学に必要な電気工学の基礎について実習を通して理解する。担当講師は、企業において電気・電子回路設計に従事しており、そこで得た、電気回路・電子回路の知識・経験を学生にフィードバックしている。

2. 到達目標

直流、交流、過渡現象、共振などを再現し、実習を通して理解する。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション
2	オリエンテーション
3	オリエンテーション
5	オシロスコープの使い方
5	オシロスコープの使い方
6	オシロスコープの使い方
7	テーマ①（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
8	テーマ①（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
9	テーマ①（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
10	テーマ②（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
11	テーマ②（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
12	テーマ②（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
13	テーマ③（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
14	テーマ③（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
15	テーマ③（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
16	テーマ④（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
17	テーマ④（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
18	テーマ④（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	臨床工学専攻科	
科目番号	14	科目名	電子工学		科目区分	専任 実務教員	
科目群	専門基礎	担当講師	沢田 雄太		履修区分	必修	
開講学年	1年次	開講学期	通年	単位数	4単位	授業形態	講義
教科書	臨床工学講座 医用電子工学		参考書	なし			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）90%、平常点や授業への貢献度 10%						

1. 授業概要

臨床工学に必要な電子工学の基礎について理解する。担当講師は、企業において電気・電子回路設計に従事しており、そこで得た、電気回路・電子回路の知識・経験を学生にフィードバックしている。

2. 到達目標

電子工学に必要なデシベルの計算、オペアンプ、半導体、通信の知識を習得する。

3. 授業計画

1	増幅回路、増幅度・デシベルの計算
2	増幅回路、増幅度・デシベルの計算
3	オペアンプの特徴、基本動作、反転増幅回路
4	反転増幅回路
5	加算回路（反転増幅回路の応用）
6	非反転増幅回路
7	ボルテージフォロワ（非反転増幅回路の応用）
8	差動増幅回路
9	CMRR（同相除去比）
10	CMRR（同相除去比）
11	オペアンプを使用した微分回路・積分回路
12	オペアンプを使用した微分回路・積分回路
13	半導体の性質（n形、p形）
14	半導体の性質（n形、p形）
15	ダイオードの動作原理・特性、定電圧ダイオード
16	整流回路
17	整流回路
18	平滑化回路
19	中間テスト
20	波形整形回路（クリップ回路、クランプ回路）
21	波形整形回路（クリップ回路、クランプ回路）
22	波形整形回路（クリップ回路、クランプ回路）
23	ダイオードを使った論理回路
24	ダイオードを使った論理回路
25	バイポーラトランジスタの動作原理
26	バイポーラトランジスタの動作原理
27	バイポーラトランジスタの接地方法・特性
28	トランジスタ演習
29	トランジスタ演習
30	スイッチング作用（NOT回路動作）、応用回路（NAND、NOR）

3 1	接合形 FET
3 2	MOS-FET (エンハンスメント型)
3 3	MOS-FET (ディプレッション型)
3 4	半導体素子
3 5	無線通信
3 6	オペアンプ演習
3 7	ダイオード演習
3 1	接合形 FET
3 8	トランジスタ演習
3 9	その他演習
4 0	期末テスト

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	臨床工学専攻科	
科目番号	23	科目名	医用治療機器学		科目区分	専任 実務教員	
科目群	専門	担当講師	山本将人		履修区分	必修	
開講学年	1年次	開講学期	前期	単位数	2単位	授業形態	講義
教科書	臨床工学講座 医用治療機器学		参考書	なし			
成績評価	試験 100%						

1. 授業概要

各種医用治療機器について、原理と構造、治療の目的と方法について理解する。医療施設において臨床工学技士として業務に従事しており、そこで得た、医療治療機器に関する知識・経験を学生にフィードバックしている。

2. 到達目標

医療治療機器の原理と構造、治療の実際と保守管理など国家試験に必要な知識を修得する。

3. 授業計画

前期	
1	治療の基礎
2	心臓について・ペースメーカ 1 (目的・適応疾患)
3	ペースメーカ 2 (種類)
4	ペースメーカ 3 (設定項目)
5	ペースメーカ 4 (モード)
6	ペースメーカ 5 (注意事項など)
7	除細動 1 (DC の構成①: 目的・適応・DC 構成)
8	除細動 2 (DC の構成②: Hブリッジ回路～R波同期)
9	除細動 3 (保守点検・事故と対策、AED)
10	除細動 4 (AED・ICD)
11	輸液ポンプ 1
12	輸液ポンプ 2
13	ESWL (結石破碎装置)
14	心血管インターベンション 1
15	心血管インターベンション 2
16	中間試験
17	電気メス 1 (原理・作用・構成)
18	電気メス 2 (事故・点検)
19	マイクロ波手術装置
20	マイクロ波手術装置
21	レーザー 1
22	レーザー 2
23	冷凍手術器
24	ハイパーサーミア
25	超音波吸引機器
26	超音波凝固切開装置
27	内視鏡
28	内視鏡外科手術機器
29	問題演習



科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	臨床工学専攻科	
科目番号	28	科目名	生体機能代行技術学実習		科目区分	専任 実務教員	
科目群	専門	担当講師	山本将人 他		履修区分	必修	
開講学年	2年次	開講学期	前期	単位数	3単位	授業形態	実習
教科書	適宜プリント配布			参考書	なし		
成績評価	レポート提出 100%						

1. 授業概要

生体機能代行装置を操作することにより、座学で得られた知識をより深く理解する。担当講師の医療施設において臨床工学技士として業務に従事した経験を活かし、医療治療機器に関する知識・経験を学生にフィードバック出来る。

2. 到達目標

生体機能代行装置の操作、保守を実際行うことにより、技術の習得につなげる。

3. 授業計画

前期	
1	呼吸療法装置 概論
2	(1) 臨床的意義
3	(2) 呼吸系の生理と病態
4	(3) 種類・原理・構造
5	(4) 医用ガスの物性と気体力学
6	(5) 呼吸療法技術
7	(6) モードの確認
8	(7) 周辺医用機器の原理と取扱
9	(8) 患者管理
10	(9) 事故事例と安全対策
11	(10)新しい機器・技術
12	(11)BIPAP
13	(12)保守点検技術
14	(13)ロールプレイング
15	(14) //
16	体外循環装置 概論
17	(1) 臨床的意義
18	(2) 循環系の生理と病態
19	(3) 種類・原理・構造
20	(4) 血液物性と流体力学
21	(5) 人工肺の物理
22	(6) 体外循環技術
23	(7) 周辺医用機器の原理と取り扱い
24	(8) IABP・PCPS
25	(9) 患者管理
26	(10)新しい機器・技術
27	(11)人工心臓
28	(12) //

29	(13)ロールプレイング
30	(14) 〃
31	血液浄化装置（人工透析装置を含む）概論
32	(1) 臨床的意義
33	(2) 代謝の生理と病態
34	(3) 血液透析患者の検査データ
35	(4) 種類・原理・構造
36	(5) 流体力学と物質輸送論
37	(6) 血液浄化の物理
38	(7) 血液浄化技術
39	(8) 周辺医用機器の原理と取り扱い
40	(9) 他の血液浄化機器について
41	(10)血液透析患者の一連の流れ
42	(11)プライミング
43	(12)除水誤差測定
44	(13)ロールプレイング
45	(14) 〃

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	介護福祉学科	
科目番号	0504	科目名	高齢者サービス概論		科目区分	専任 実務教員	
科目群	介護の 基本	担当講師	曾我 辰也		履修区分	必修	
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教科書	最新・介護福祉士養成講座4「介護の 基本Ⅱ」(中央法規出版)			参考書			
成績評価	試験、授業貢献度等を総合して評価する。具体的には、期末試験 70%、小テスト①10%、小テスト②10%、平常点や授業への貢献度 10%で評価する。						

### 1. 授業概要

- ・高齢者福祉の歴史的変遷と高齢者を取り巻く社会的背景を知り、支援の必要性を学ぶ。
  - ・介護保険サービスの種類やサービスの報酬・算定基準についての理解を深め、介護サービスの提供の場の特性を学ぶ。
  - ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- この授業は教員の在宅介護、居宅介護支援事業所にて介護支援専門員業務の実務経験から、当該科目における高齢者福祉の変遷、介護保険制度の概要、サービスの各論等の要点を伝えるとともに、超高齢社会の課題等について実体験から講義することが出来る。

### 2. 到達目標

- ・介護保険制度および高齢者支援の目的を理解する。
- ・介護保険サービスの特徴、高齢者介護の実践の場を理解し、介護福祉士に求められる義務・役割を理解する。
- ・チームアプローチによるサービスを提供するために、他職種の業務の理解と連携のイメージが図れる。
- ・介護の現場の運営や経営に関心を持つ。

### 3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、方法、目標、評価 介護サービスの特性①～介護サービスの意味と特性
2	介護サービスの特性②～ケアマネジメントの意味と仕組み
3	介護サービスの特性③～介護サービスの歴史的変遷と時代背景
4	介護サービスの特性④～介護保険制度 介護保険制度の概要1
5	介護サービスの特性⑤～介護保険制度 介護保険制度の概要2
6	介護サービスの特性⑥～介護保険制度 介護保険制度の概要3
7	介護サービスの特性⑦～地域包括ケアシステム
8	介護サービス提供の場の特性①～訪問系サービス
9	介護サービス提供の場の特性②～通所・短期入所系サービス
10	介護サービス提供の場の特性③～入所・入居系サービス1
11	介護サービス提供の場の特性③～入所・入居系サービス2
12	介護サービス提供の場の特性④～地域密着型サービス1
13	介護サービス提供の場の特性④～地域密着型サービス2
14	介護サービス提供の場の特性⑤～福祉用具・住宅改修
15	試験、授業アンケート

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	介護福祉学科	
科目番号	0801	科目名	介護過程 I		科目区分	兼任 実務教員	
科目群	介護過程	担当講師	佐伯久美子		履修区分	必修	
開講学年	1年	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教科書	『最新介護福祉士養成講座9 介護過程』第2版(中央法規)			参考書	授業ごとに配布資料を使用する。		
成績評価	レポート試験 80%、参加態度 20%で評価。						

1. 授業概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が安心してその人らしく生活するために必要な介護過程の意義を学ぶ。</li> <li>・介護過程の全体像を理解する。</li> <li>・自立に向けた介護過程のアセスメントから計画の立案までの展開方法を学ぶ。</li> <li>・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。</li> </ul> <p>この授業では教員の介護老人保健施設での介護職員として勤務し、施設ケアプランの研修や介護過程の指導を行なった経験、介護老人保健施設におけるチームアプローチの実践の経験等、授業でわかり易く実践に沿って講義を行うことが出来る。</p>
---

2. 到達目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の生活を支えるために、どのような介護の実践においても介護過程の展開における思考方法が基盤となることを理解する。</li> <li>・自立に向けた介護過程の展開について、アセスメントから計画立案までの具体的な方法を理解する。</li> </ul>
---

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、到達目標、方法、評価について 介護過程の意義・目的：介護過程とは何か、介護過程の意義と目的／事例
2	介護過程の全体像の理解①：介護過程の全体像の理解／身近な事例で考える課題解決過程①
3	介護過程の全体像の理解②：身近な事例で考える課題解決過程②／各プロセスの理解
4	アセスメントの視点①：介護過程の展開の視点（ICF・尊厳を守るケアの実践・個別ケアの実践・生活と人生の継続・生きがいと役割・自立支援・多職種協働と連携・根拠に基づく介護）
5	アセスメントの視点②：ICFの視点に基づくアセスメントの基礎理解（ICFとは何か・ICFの特徴・構成要素）
6	アセスメントの視点③：ICFの視点に基づくアセスメントの情報収集／事例
7	アセスメントの支援④：ICFの視点に基づくアセスメントの解釈・関連付け・統合／事例
8	アセスメント①：情報収集の理解
9	アセスメント②：情報収集の実際／自立に向けた介護過程の展開（事例）
10	アセスメント③：ICFの視点に基づくアセスメント／自立に向けた介護過程の展開（事例）
11	アセスメント④：解釈・関連付け・統合／自立に向けた介護過程の展開（事例）
12	アセスメント⑤：課題と課題の優先順位／自立に向けた介護過程の展開（事例）
13	計画①：目標（介護の目的と目標・活動と参加・「できる活動」「している活動」「する活動」）／自立に向けた介護過程の展開（事例）
14	計画②：支援の内容／自立に向けた介護過程の展開（事例） 実施と評価について
15	前期まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	介護福祉学科	
科目番号	0802	科目名	介護過程Ⅱ		科目区分	兼任 実務教員	
科目群	介護過程	担当講師	佐伯久美子		履修区分	必修	
開講学年	1年	開講学期	後期	単位数	4	授業形態	講義
教科書	『最新介護福祉士養成講座9介護過程』第2版(中央法規)			参考書	授業ごとに配布資料を使用する。		
成績評価	授業の提出物とレポート(事例1～3、実習事例)100%で評価する。						

1. 授業概要

- ・事例を通して自立に向けた介護過程の展開および、利用者の状態に応じた介護過程の展開の方法を学ぶ。
  - ・ICFの視点に基づくアセスメントの特徴への理解を深める。
  - ・根拠ある介護を実践するための専門的視点の活用と、チームアプローチの方法について学ぶ。
  - ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- この授業では教員の介護老人保健施設での介護職員として勤務し、施設ケアプランの研修や介護過程の指導を行なった経験、介護老人保健施設におけるチームアプローチの実践の経験等、授業でわかり易く実践に沿って講義を行うことが出来る。

2. 到達目標

- ・テキストの事例から、自立に向けた介護過程と利用者の状態に応じた介護過程の展開方法を理解する。
- ・介護過程の展開におけるチームアプローチと介護福祉士の役割を理解する。
- ・介護過程の展開方法を修得し、実際の利用者を理解し、アセスメントすることができる。

3. 授業計画

前期	
1・2	授業オリエンテーション：概要、目標、方法、評価／介護過程の展開方法（復習） 自立に向けた介護過程の展開①：(事例1) 情報収集
3・4	自立に向けた介護過程の展開②③：(事例1) 心身の状況と活動及び背景の理解／ICFの視点に基づくアセスメント
5・6	自立に向けた介護過程の展開④⑤：(事例1) 解釈・関連付け・統合・課題の明確化／介護計画の立案
7・8	自立に向けた介護過程の展開⑥⑦：(事例1) 介護計画の検討／介護計画の発表・実施
9・10	自立に向けた介護過程の展開⑧：(事例1) 評価・事例1まとめ 利用者の状態に応じた介護過程の展開①：(事例2) 情報収集
11・12	利用者の状態に応じた介護過程の展開②③：(事例2) 心身の状況と活動及び背景の理解／ICFの視点に基づくアセスメント
13・14	利用者の状態に応じた介護過程の展開④⑤：(事例2) 解釈・関連付け・統合・課題の明確化／介護計画の立案
15・16	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑥⑦：(事例2) 介護計画の検討／介護計画の発表・実施
17・18	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑧：(事例2) 評価・事例1まとめ 介護過程とチームアプローチ①：ケアマネジメントと個別介護過程
19・20	介護過程とチームアプローチ②：多職種連携と介護福祉士の役割 介護過程とチームアプローチ③：(事例3) 情報収集
21・22	介護過程とチームアプローチ③：(事例3) 心身の状況や背景の理解・多職種連携・サービスの種類／ICFの視点に基づくアセスメント
23・24	介護過程とチームアプローチ③：(事例3) 解釈・関連付け・統合・課題の明確化／居宅サービス計画

25・26	介護過程とチームアプローチ③：(事例3) サービス担当者会議／個別介護計画
27・28	介護過程とチームアプローチ③：(事例3) 個別介護計画発表・事例3まとめ 介護過程の展開の実際①：高齢者施設実習に向けて
29・30	介護過程の展開の実際②：高齢者施設実習の個別事例のアセスメントの発表／まとめ

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	介護福祉学科	
科目番号	0803	科目名	介護過程Ⅲ		科目区分	兼務実務経験教員	
科目群	介護過程	担当講師	佐伯久美子		履修区分	必修	
開講学年	2年	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	講義
教科書	『最新介護福祉士養成講座9介護過程』(中央法規)		参考書	授業ごとに配布資料を使用する。			
成績評価	授業の提出物、レポート100%で評価する。前後期の配分は50%ずつ。						

### 1. 授業概要

- ・自立に向けた介護過程の展開を踏まえ、さまざまな状態・状況に応じた介護過程の展開の方法を学ぶ。
- ・介護福祉の実践におけるチームアプローチの意義と実際の方法を学ぶ。
- ・介護実習で担当した利用者の介護過程の展開を振り返り、より適切な方法について考察する。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

この授業では教員の介護老人保健施設での介護職員として勤務し、施設ケアプランの研修や介護過程の指導を行なった経験、介護老人保健施設におけるチームアプローチの実践の経験等、授業でわかり易く実践に沿って講義を行うことが出来る。

### 2. 到達目標

- ・さまざまな状況や状態の利用者に対しても適切に介護過程を展開するための思考方法が身につく。
- ・専門職のチームの一員として、多職種との連携・協働において介護過程を実践することができる。
- ・介護実習で担当した利用者の介護過程の展開を振り返り、より適切な方法を考察することができる。

### 3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション：概要、目標、方法、評価 介護過程の展開の実際①：高齢者施設実習の個別事例の計画の立案
2	介護過程の展開の実際②：高齢者施設実習の個別事例の計画の発表（グループワーク）
3	介護過程の展開の実際③：高齢者施設実習の個別事例のカンファレンス（グループワーク）
4	介護過程の展開の実際④：高齢者施設実習の個別事例の計画の発表（クラス発表）
5	利用者の状態に応じた介護過程の展開①：（事例1）（情報収集）
6	利用者の状態に応じた介護過程の展開②：（事例1）（心身の状況や背景の理解・アセスメントの視点）
7	利用者の状態に応じた介護過程の展開③：（事例1）（ICFの視点に基づくアセスメント）
8	利用者の状態に応じた介護過程の展開④：（事例1）（解釈・関連付け・統合・課題の明確化）
9	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑤：（事例1）（介護計画の立案）
10	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑥：（事例1）（介護計画の検討）
11	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑦：（事例1）（介護計画の発表・実施）
12	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑧：（事例1）（評価・事例1まとめ）
13	介護過程の展開の実際①：介護実習に向けて
14	介護過程の展開の実際②：介護実習に向けて
15	介護過程の展開の実際③：介護実習の振り返り
後期	
1	介護過程の事例研究①：介護過程の事例研究の意義・授業の概要・方法・評価
2	介護過程の事例研究②：介護実習の事例の発表と課題・テーマの検討
3	介護過程の事例研究③：事例紹介の作成・テーマの決定と構成の検討・文献検索

4	介護過程の事例研究④：事例紹介の作成・テーマの決定と構成の検討・文献検索
5	介護過程の事例研究⑤：はじめに・研究目的の作成
6	介護過程の事例研究⑥：はじめに・研究目的の作成
7	介護過程の事例研究⑦：考察の作成
8	介護過程の事例研究⑧：考察の作成
9	介護過程の事例研究⑨：考察の作成
10	介護過程の事例研究⑩：考察の作成
11	介護過程の事例研究⑪：考察の作成
12	介護過程の事例研究⑫：結論・おわりに・文献一覧作成
13	介護過程の事例研究⑬：結論・おわりに・文献一覧作成
14	介護過程の事例研究⑭：抄録の作成
15	介護過程の事例研究⑮：発表について（2月に介護過程の事例研究を発表する）